

# 平成26年度 見附市算数科部 活動報告

部長 本田 あつ子

## 1 研究主題

NRTの分析の仕方 ～分析したことをどう指導に生かし、どう実践していくか～

## 2 研究の概要

- 日時 平成26年8月21日(木)
- 会場 見附市立見附小学校 会議室
- 内容
  - ・グループ協議
  - ・講演 NRTの分析の仕方  
結果を分析したことをどう指導に生かし、どう実践していくか

## 3 研究の実際

- (1) A中学校の1年生のNRTの結果をもとに、各自で学年・学級の傾向を分析
- (2) 小・中学校のグループ別で傾向と対策の協議
- (3) 講話
  - ・学力検査・調査について
  - ・学力検査の分析
  - ・授業改善に向けて
  - ・小・中職員間の連携

## 4 成果と課題

- 検査の結果、偏差値が50以上あればよいということではなく、通過率より下の問題をチェックし、何につまずいているのかを把握することが大切である。もし、説明の仕方ができていないようならば、授業の中で振り返りを書かせ、本時で学習したことについて何かしら書ける力をつけることが必要である。
- 通過率の低い領域の補充のために、授業の最初の10分間に補充プリントを実施することも有効である。プリントは数学部で共有し、システム化していく。その際、進度の確認・授業の流し方を共通理解していく。長期休業のプリントよりも、毎時間の授業の中でいかに補充していくかが、重要である。
- 家庭学習の充実・改善も必要である。実践例としては、下校前の15分間で家庭学習の見通しを持たせ、内容について具体的に計画を立てさせてから取り組ませている学校もある。
- 授業改善に向けては、特に割合の単元についての改善が必要である。比例的推論に関する学習は、2本の直線を使って考えさせたり、系統性を実感させたりするカリキュラム改善が必要である。